２００４（平成１６年）９月号

カルメル

霊性センターニュース

９月号

No. 191

「大切なのは基本をしっかり作ること」

カルメル会　中川 博道

「大切なのは基本をしっかり作ること。難しい技を小さな時から習得する必要はない 」。長い間、低迷していた日本の体操競技の金メダル獲得の影に四半世紀にも及ぶこのような努力があったことを聞いて深く考えさせられます。

日本社会の様々な意味での低迷、病んでいる現実、混乱、崩壊。それを映しているかのような教会の現実。出口の見えない状況の中で、無力感に囚われながら、今すぐの解決を追い求めようとすると、ますます不安と焦燥感に駆られるジレンマに陥ります。

日本の体操界にもそのような時期があって、そんな時に根本から体操の本質を見つめなおし、幼い子供たちに基本をしっかり習得させることから始めた人々がいたことが、今の成果に結びついたのだと思います。

昨年、カルメル修道会は６年ごとの世界総会において、現代において問われていることとして「本質的なものからの再出発」を採択し歩み始めました。カルメル的な眼差しと召命の中で、現代世界を分析し、呼びかけを聴いた中からの新たな一歩が記されています。この混迷の時代において先ず問われていることとして、人間としての本質、キリスト者としての本質、福音を信じて生きて行く者の本質、奉献生活を生きる者の本質、そしてカルメルのカリスマを生きる者の本質が観想され、具体的な歩みが模索されています。これは、「一番基本的なものは何か」「どこから再出発すべきか」を模索する歩みの一歩です。

混迷と低迷の現代、「あせらず　あわてず　あきらめず」※、ここで深く深呼吸して本質を問いかけ、基本的なことから歩みだす勇気を願いたいと思います。

あたがたは地の塩である。
塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。
もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、
人々に踏みつけられるだけである。（マタイ 5.13）

※競泳自由形で金メダルに輝いた柴田亜衣さんが、泳ぎながら自分に言い聞かせていた言葉。

心　の　泉

＝ 講 話 ＝

跣足カルメル在俗者会の会憲（1）

チプリアノ・ボンタッキョ神父

昨年（2003年）の6月16日の日付の教令で聖座によって跣足カルメル在俗者会の新しい会憲が承認され、“生活規則”に代わるものとなりました。

今までの“生活規則”は1979年の5月10日に承認されたもので、約25年間に亘って、信徒の身分を保ちながら、跣足カルメル会の霊性を生きようとする人々に具体的な指導を与えてきたものです。

ところで、第二次ヴァチカン公会議が促している刷新も取り入れていたこの生活規則を見直すことがなぜ必要と思われたでしょうか。

考えられる理由は特に二つあると思います。その一つは、公会議の公文書に込まれている新しいものが、世界の教会の中に浸透して行くには時間がかかるからです。教会に於ける信徒の位置付け、その資格、その責任、その召命と使命などについての公会議の教えが教会全体の意識の中に浸透した時、初めて信徒の集団は、持っている法典がその教えに添っているかどうかの判断ができるようになり、それを見直すことが必要であるなら、皆がその必要性に気付くのです。

公会議後に作られた“生活規則”の再検討に拍車をかけたものは、1988年12月30日発表された教皇ヨハネ・パウロ二世の“信徒の召命と使命”という使徒的勧告だったと思います。この勧告は信徒についての公会議の教えを更に深めたもので、信徒と聖職者との関わりの在り方、教会生活への信徒の参加、福音宣教に関しての聖職者と信徒の共同責任、特に信徒の活躍の場である人間社会の中の信徒の福音宣教などについて述べています。

さて、この新しい会憲の認可の教令について一言を述べたいと思います。

まずこの会憲のテキストがスペイン語の規範版に基づいて承認されたということです。このテキストの承認の教令において、カルメル在俗者会会員に対して教会の期待が表明されているのでそれをも一度聞くことにしましょう。この“会憲の新しいテキストが、各会員たちにとって、家庭、社会、市民、また、教会生活の具体的状況内での洗礼の奉献をますます強化するための、まことに効果的な手段となることを希望している”と。

断想　（１９４）

奥村　一郎

希望　―　流れ星

道なき道
ひたぶるに　去(ゆ)きし道
なお　今日も行く道

虚空(こくう)の響き
刹那滅(せつなめつ)
過去なく　未来なく
今なき今の
黄金の時

天翔ける鷲の翼
あとかたもなし　川の流れ
真夜中の流れ星

ヘンリ・ナーウェンの『旅路の糧』(６９)

内なる橋をかけること

祈りとは、意識の生と無意識の生の間のかけ橋です。私たちの思いや言葉や行いと、白昼夢や夜の夢に現れる多くのイメージとの間には、しばしば大きな深淵が存在します。祈ることとは、神が住まわれる場へ行くことによって、私たちの生のこれら二つの側面を結ぶ合わせることなのです。祈りは、「魂の業」です。なぜなら私たちの魂は、すべてが一つとなり、神がもっとも親密な仕方で私たちと共におられる、あの聖なる中心だからです。

したがって私たちは、ほんとうに完全なる者・聖なる者となることができるように、たゆまず祈らなくてはなりません。

（０１１５）

祈れるようになること

祈りとは、「霊」の賜物です。しばしば私たちは、どのように祈るべきか、いつ祈るべきか、何を祈るべきかと迷います。祈りの方法やテクニックに、私たちの関心が集中しがちです。しかし結局のところ、祈っているのは私たちではなく、私たちの中で祈っている「霊」なのです。

パウロは、こう言っています。「『霊』は弱い私たちを助けに来てくれます。私たちがどう祈るべき分からない時、『霊』自らが、言葉に表せないうめきをもって取り成し、祈ってくださるからです。人の心を見抜く方は、『霊』の思いが何であるかを知っておられます。神の聖なる民のために執り成してくださる『霊』の祈りは、つねに神の御心に従っているからです」（ロマ 8:26－27)。以上のことから、『霊』が慰め主と呼ばれている理由が分かります。

（０６０９）

九里（くのり） 彰訳

カトリック　☆★　アラカルト　★☆（１２）

嶋崎　浩樹（カルメル会）

≪ゆるしの秘跡≫（1）

以前は、「告解」と呼ばれていた秘跡が、「ゆるしの秘跡」です。ラテン語では、「confessio」で、日本語に訳すのが難しい言葉です。意味を理解して日本語に訳すと、「ゆるし」、「和解」、「いやし」という言葉を並べることになります。現在の教会では、便宜上「ゆるしの秘跡」という訳語を用いていますが、今言った三要素がその言葉の中には、含まれているのです。そのことがわかっていないと、ゆるしの秘跡の意味がわからなくなってしまいます。では、この三つの要素に基づいて、ゆるしの秘跡を考えてみたいと思います。

①「ゆるし」

「ゆるし」というぐらいですから、何か悪いこと、迷惑をかけたことがなければゆるしようがありません。つまり、何らかの罪を犯し、それをゆるしてもらうということになります。罪については、以前、お話ししましたので、それを参考にして下さい。

ただ、ゆるしの秘跡の場合、罪ということにあまりにもこだわりすぎると、「罪を犯していないので、秘跡を受ける必要がない」ということにもなりかねません。そこで、もう少し範囲を拡げて、自分では良いと思って行ったようなことであっても相手の人から見れば、悪いこと、迷惑をかけたようなことがあれば、そのことも告白するようにすればいいと思います。

②「和解」

誰と和解するのか？それは、まずは神様です。でも神様だけではありません。迷惑をかけた人、また自分自身と和解します。そして、もう一つは、共同体に対してです。わたしたちが犯した罪、過失の影響は、私とその相手の人にとどまるのではなく、共同体にも何らかの影響を与えます。たとえば、私と誰かが争っていた時、周りの人にも心配をかけたり、何らかの迷惑をかけたりします。ですので、ゆるしの秘跡は、神様だけにゆるしを願うのではなくて、私と相手の人、また自分自身とその周りにいる人々にゆるしを願うものです。

③「いやし」

司祭を通して神様に告白することによって、わたしたちは、自分自身の心の整理を行うとともに、神様から、心の傷の癒しが与えられます。これは、目に見えるものであるとは限りませんが、ゆるしの秘跡を受け続けることによって、少しずつ心が癒されていきます。

今、考えてきたように、この三つの要素によって、ゆるしの秘跡がより効果のあるものとなっていきます。次回からは、もう少し具体的に、ゆるしの秘跡について見ていきたいと思います。

URL:http://www.geocities.jp/hs_ocd/　e-mail:pax@inter7.jp

年間第２３主日
キリスト者でいることの代価
（ルカ１４：２５－３３）

今日の福音は、家造りのたとえから、神の国に入ることが招待されたかのように、たやすく何の努力も要らないかの印象を与えるかもしれません。けれども、天国へのチケットはそれほどたやすく手に入るものではありません。そのような安っぽい恩寵のようなものはどこにもありません。「憎む」という語は、「愛のない」ことを意味します。もし至高に値する神よりも他のものを愛するなら、私たちは神にとってふさわしくありません。キリストに従うということは、天国へのそれぞれの道をたどることを意味します。それは一生をかけた旅です。この旅を全うするために、私たちに与えられている時間は限られています。ですから、私たちは日々の十字架を担って、毎日それなりの道のりを行かねばなりません。

十字架は、キリスト信者の激しくも力強いシンボルです。それは神が私たちに期待する愛の質を映し出すからです。ただキリスト教のみが、私たちの苦しみの意味を示し得ます。なぜなら、神は私たちのために苦しまれたからです。イエスに従って行こうと決心した人々は、艱難辛苦を当然のこととして待ち受けます。しかしながら、その忍耐はより深い愛と新たな生命をもたらすことでしょう。今日読まれる福音では、「もしだれかが私のもとにやって来て、両親や妻、子供たちや兄弟姉妹、また自分自身を憎まないなら、その人は私の弟子とは言えない」と言うイエスに出会います。これは、両親には二番目の愛を、ということなのです。家族から離れ、自ら進んで十字架を背負うことを、イエスは求めます。私たちはすべてから－それは家族からをも－離れる準備をしていなくてはなりません。今日の福音の、私たちにとってこのよくわからない一節は、父や母を憎みなさいというのではなく、私たちの人生における第一位に彼らを留め置きつづけてはならないと言っているのです。第一の位置はイエスです。キリスト者としての生活を送るための努力は限りがありません。一意専心、ある種のひたむきさは、ただキリスト教だけのものではありません。座禅のとき、禅の導師は教えます。「力を抜いて真っすぐの姿勢で座りなさい。そしてすべてを解き放ちなさい」と。

アメリカ人作家ゲールは、本のタイトルに「私は三番目」とつけました。その意味を尋ねられて、彼はこう言いました。「神が一番最初、両親や家族・友人たちは二番目、それで自分は三番目だよ。」 言い換えれば、イエスに最上位を与えるということです。神の恩寵の招きに直に触れた者はみな、犠牲と献身への決意、自己抑制と世俗からの離脱とを考量してみなければなりません。

自分自身に問いかけてみましょう。使徒信経に書かれている掟が求めていることは、私たちにとって難しすぎることでしょうか。 （Beatrice）

年間２４主日

「一緒に喜んでください」（ルカ１５：６，９）

今日の福音には神の憐れみを示す三つのたとえがあります。見失った羊のたとえ、無くした銀貨のたとえ、そして放蕩息子のたとえです。この三つのたとえに共通しているのは、見失っていたものを見つけたときには喜びがとても大きいと言うことです。この見失われていたものとは、１５：２にある「この人は罪人たちを迎えて食事まで一緒にしている」とのファリサイ派・律法学者たちの批判に応えて、たとえが語られたのですから、罪人を指しています。見失われていた罪人が回心して神のもとに戻ったとき、天使たちの間でどれほど大きな喜びがあることでしょう。それは一緒に喜んでくださいと会う仲間ごとに言いたくなるほどです。最初の二つのたとえには、「一緒に喜んでください」という言葉があり、放蕩息子のたとえにはありませんが、「おまえの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しむのは当たり前ではないか。」という父親の言葉が同じことを語っています。

さて、この「一緒に喜んでください」を取り上げたいのですが、日本で友達や近所の人々を呼び集めてこう言ったとしたら、ちょっと変わった人だと思われるのではないでしょうか。ここには明らかに文化の違いがあります。彼らヘブライ人たちは共に喜ぶことを重視する文化を生きています。現代においてもそうです。

１９７６年７月、アラブゲリラがウガンダのエンテベ空港でイスラエル航空機をハイジャックするという事件が起きました。イスラエル政府はアラブゲリラの要求にぜんぜん譲歩しませんでしたから、人質の安全が危ぶまれたのですが、イスラエル特殊部隊がエンテベ空港のアラブゲリラを襲撃し、人質を全員無事に奪還しました。この見事な解決を記憶されている方も少なくないと思います。釈放された乗客たちはイスラエルのテルアビブ空港に別の飛行機で運ばれました。空港ロビーには乗客の家族や友人、関係者たちが迎えに来ていました。乗客たちが現れたとき、彼らの喜びが爆発し、皆踊りだし、空港ロビーに巨大な踊りの輪ができたそうです。これは日本に在住していたユダヤ人が書いていました。ちょうどそのころ、日本でもハイジャック事件があり、乗客が解放されて出てくるところをテレビで放映していました。このユダヤ人はこういう場合日本人がどういう行動をするのか興味津々で見ていたそうです。解放された人たちと家族が何も起きなかったかのように、特に目立つふるまいもせずに立ち去ったことに驚いたと書いていました。多分こまやかな感情表現を見逃したのでしょう。

喜びは分かち合えばより大きくなり、悲しみは共に担えば小さくなると言われますが、本当だと思います。日本文化は喜びよりも悲しみに共感するほうが強い文化でしょう。しかしながらヘブライ人の喜び方から学ぶことのできることも少なくないと思います。

（新井）

年間第２５主日
あなたがたは神と富とに仕えることはできない
（ルカ１６：１－１３）

今日の福音の中で、イエスは私たちに語りかけます。「どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできず、あなたがたが神と富とに仕えることはできない。」神と富とは、ある点で背反します。もしだれかがお金の奴隷になるなら、彼は神に仕えられません。神に望んで仕える人は、必要以上の金銭を手に入れようと時を浪費することはしないでしょう。一見したところ、この話は大目に見るたとえ話のように思われますが、それ以上のものを含んでいます。将来の保証を見越した管理人の利口さをイエスは称賛し、神のものに対する弟子たちの独創力の無さをイエスは叱責するのです。もし私たちの生活を充実させ職業を熟達させるのに十分な時間と同じくらい、神の国を建てるための時間またその労苦として与えられるとすればどうでしょう。

財産、資質、知性、道徳的精神的豊かさ、心のはたらき、これらすべては管理人の職分として私たちに与えられているものです。そして、それらの使途明細については説明を求められるでしょう。神が私たちに預けた賜物、それは神のものであり、その多くの賜物を無駄にする権利は私たちにはありません。イエスは次のようにも言います。「不正にまみれた富を用いてでもあなたがた自身のために友達を作りなさい。」友達を作ること、友情を築くこと、それは誉められることです。富の正しい使い方は友情を築くこと、私たちの関係に愛を注ぐことです。金銭そのものは悪くはなく、ある人々にとっては喜びをもたらすものともなるでしょう。しかし、金銭そのものは私たちにとっての本当の富ではありません。富は人を善良にも聡明にも幸福にもしません。本当に価値あるものは、どこか別のところで見出されることでしょう。金銭に魅入られることを自らに許してしまうなら、真の価値から私たちは遠ざかってしまうことでしょう。

一日のうちの一時間を、神と神のものに捧げているでしょうか。極貧の人々を助け、イエスについてより学び、教会で手伝い、精神的あるいは世俗的苦難に際して助言し、自らと隣人－私たちが援助してもまだ必要な人々－のために祈りましょう。その時間は自己自身に費やす時間の三分の一以下にも満たないのですから。

この世の子ら以上に抜け目なくあること、そのことさえをも神は私たちに望んでおられます。日々、忠実であることを望んでおられます。小さな事に忠実な人は、大きな事にもまた忠実です。全面的な献身を神は望み、神と富－この二つの主人－に仕えることはできないと語ります。火のように、貨幣は善良な従僕たりえますが、主人にはなっても悪い主人にしかなりえません。私たちは金銭にではなく、神に今も仕えています。貨幣などの無いところに神はおられます。問題となるのは生きていた時間の使途明細報告書であって、そこで神は私たちを待っておられるのです。

（Beatrice）

年間第２６主日

「今ここで彼は慰められ、おまえはもだえ苦しむのだ」（ルカ１６：２５）

神の憐れみは限りなく、神の慈しみは甘美で、固い人間の心をも柔らかくし、愛に開かれたものへと変えてくださいます。しかし一方で神の愛の要求は厳しく、容赦ないと思えるときもあります。今日の金持ちとラザロのたとえを読む時、神はきびしいお方だと思わざるを得ません。

毎日贅沢に遊び暮らしていた金持ちが死後陰府で苛まれています。金持ちの門前で暮らしていた貧しいラザロは、死後アブラハムと共に宴席にいます。金持ちはアブラハムに助けを求め、それが不可能だとわかると「私の家にラザロを遣わしてください。私の兄弟たちがこんな苦しい場所に来ることのないようによく言い聞かせてください」と頼みます。この願いは聞き入れられず、「モーセと預言者に耳を傾けないなら、たとえ死者の中から生き返るものがあっても、その言うことを聞き入れはしないだろう」とアブラハムは答えます。このアブラハムの最後の言葉がたとえ話の中心をなしているのですが、私はむしろ名前さえあげられていない金持ちに同情して読んでみたいと思うのです。

この金持ちは善良な性格の人だといえます。それは自分が陰府で苛まれつづける運命であることを知った後に、兄弟たちが自分と同じ苦しみにあわないように助けの手を差し伸べてやろうとすることからわかります。金持ちの善良さは受験で失敗した経験がおありならすぐ納得できると思います。自分が落ちて、同じくらいの学力の友人が合格しているのを知ったとき、素直に祝福できる人がどれほどいるでしょうか。こんなことがあっていいのかと腹を立てる人の方が多いと思います。自分が苦しんでいて、そこからどうしても出られないとき、他の人にも自分と同じ苦しみを味わわせてやりたいと思うのが人間性の醜さであり、この醜さを持っている人は大勢いると思います。ここから考えるとこの金持ちはいい人だといえます。

ところが神は性格の善良さを少しも評価していません。ただ門前に座って飢えていたラザロによい業をしたかどうかだけが問われているのです。深く考えさせられます。

もう２０年も前になりますが、インドを旅行中カルカッタでしゃれたコーヒーショップを見つけて入ったことがあります。ボーイが恭しくお盆にたくさんのケーキを乗せて持って来てくれて座席で選ぶことができます。久しぶりにコーヒーとケーキを味わい、贅沢な気分に浸っているとき、ふとガラス越しに外を見ると、路上生活者（このころ路上生活者がカルカッタの町に溢れていたのです）が見えました。私は金持ちとラザロのたとえを思い出してしまいました。日本人としては貧しい部類に入る自分だけれど、カルカッタでの今の状況はたとえの中の金持ちとそっくりだと思いました。このままでは私も確実に陰府で苛まれることになるだろうと考え、及ばずながら貧しい人々に積極的に小銭を恵んであげることにしたものです。こんな些細なことでもしないよりはずっといいだろうと思います。　　（新井）

秤（はかり）

人間の歴史は、貨幣経済に入る前の物々交換の時代から、それなりの秤で物を計っていました。紀元前５０００年も前から文化が栄えていたエジプトの話ですが、「黄金の書」といわれる書物の中に、すでに秤が登場します。でも、その秤は物の量を計るのではなく、何と人間の魂を計るというのです。

王様の御前に大きな、幼稚っぽい秤が備えてあります。その一方のお皿には、悪を象徴する鉛の丸い重い玉がのっています。２人の家来がはべっていて、今、亡くなった人の魂が運びこまれてくると、もう一方のお皿に、その魂を載せるのです。その魂が悪玉より下に下がれば大悪人。２つが平衡になれば並。魂が上に上がれば悪より軽いので善人の列に加えられ、その人は手厚く葬られる、ということだったようです。

古今東西、どの国の歴史をみても、善と悪の二言論が存在しています。
カトリックでも善と悪が交叉する中で、全く悪のない神人イエス・キリストが、人間が歩く道を、人間として（但し悪のない人間になられた神）歩かれました。人生の意味の深みは「このことの悟り」にあるのではないでしょうか。

私たちは人間ですから、不完全性、悪の傾きは勿論もっています。でもキリストは、人間に悪を修正するようにされたのではなく、不完全の環境におかれながら、どう生きていくのかを身をもって示されたわけです。

２１世紀の現代で譬えるなら、「車」がよく示していると思います。「最近は車も改良されたから比喩にはならないよ」と言ってしまえばそれまでですが、車の排気ガスについてみてみましょう。あれは悪玉です。でも人は意外と自分の排気ガスを気にして走行を正したいと思っているのですが、排気ガスばかり気にしていては、たとえ車がよくても速度は落ちるし、気分はよくないし、周囲の景色が面白くなくなるでしょう。折角手に入れた車なら、どれ位走れるのだろう。どんな景色が展開するのかな。衝突しないように注意はするが、もっと前向きに走ってみよう！！　　そうすれば、やる気、元気も出るし、人からも喜ばれるし。

“あまり秤で計らないで、前向きに走ったら、もっと生き生きと神さまにお捧げできるし、神さまをお喜ばせすることができるでしょう。そしてそれでも人からいろいろ言われる時は、キリストのように苦しみを受けることなのです。キリストの受難と十字架を仰ぎながら……”

Ｓｒ．熊田　照子（お告げのフランシスコ姉妹会）

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

5. マントゥアの福者バプティスト・スパニョリ（1447－1516）

1447年4月17日、聖母を真に愛する学者詩人がマントゥアに誕生した。彼は、大きな祈りの深みに鼓吹された詩作の数々によって、その名を世に知られることとなった。生涯中、彼は55,000行以上もの詩を書いている。若くしてカルメル会に入会し、副総長を6度務めた。1513年、会全体の総長に選出されたバプティスト神父は、教皇とその側近に説教するために招待されたこともあった。この著名な詩人は1516年3月20日にマントゥアで亡くなったが、その作品は今も生き続けている。

―― 祈り ――

［主の奉献に触れて］

おお、おとめマリア、
和らげることのできない弱さと悲しみが、
とてつもない力であなたをとらえ、
悲しみにくれるあなたのみ心を深く傷つけることでしょう。
あなたは、兄弟たちのために嘆き悲しむ太陽の娘たち以上に
御子のために嘆かれることでしょう……。
けれども、そのすべてに耐え、強い意思をもってご自分の心をお支えになります。
天国は、これほどの価を払って、勝ち取られるのです
　――そのようなそよ風にのって、永遠の港、命の岸辺にたどり着くのです。

神ご自身が、その御力をあなたに惜しみなく注がれるでしょう。
神は、あなたが倒れる時、助けあげ、
どんな時にも伴侶としてあなたとともに歩まれるでしょう。
そして、最後には、涙は笑いに、悲しみは満ちあふれる喜びに変えられるでしょう。
あなたは世界中で崇められ、天と地の女王と呼ばれることでしょう。
御子が救いの水で弟子たちを洗い、全人類をご自分の方に招かれる時
地に住む人々はあなたのために祝典を開くことでしょう。

マリアとカルメル

長きにわたって、カルメルは、あなたのために栄誉が広められるよう
　計画していました。
そして、その幸福な洞穴の中で教育しています。
　白い外套をまとって、あなたのために永遠の貞潔を証しし、
永久の誓いのうちに、あなたの名をこの山の名に結びつける息子たちを。
あなたは金よりも純粋、雪よりも白く、金星よりも明るく輝いておられます。
あなたの処女性は出産によって汚されることはなく、
あなたの輝きは、どんなしみにも曇らされることはありません。
あなたは確かにこの正当なしきたりに縛られてはいませんでした。
完全な正義のうちに、これらの賜物を捨て去ることもおできになったのに。

未来の世代が私たちを思い起こし、
　この荘厳な日に祭壇であなたに誉れをささげ、
　ローソクを持って長い行列をつくり、厳かに典礼を行なうときが来ることでしょう。
その時、金の祭服をまとって歩むあなたの司祭が、
　あなたを讃える歌を歌い、甘美な香の煙を教会中に撒き散らし、
そよ風がその心地よい香りをはるか彼方にまで運ぶことでしょう。
私たちの歩む道が、彼のおられるところで交差するゆえに、
後の世代の人々はこの日を、「出会い」という意味のギリシャ語で呼ぶことでしょう。
そして、数え切れないともしびがともされることでしょう。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ http://www.ignatius.com) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ⅰ列17:3-4）」ということばに由来しています。

（浜田裕子訳・編）

フォコラーレニュース　uno　（月刊　ウノ）　より

いのちの言葉

天への狭き門

狭い戸口から入るように努めなさい。
言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。
（ルカ１３・２４）

イエスは、天国について話す時、よくそれを“婚宴”や“家族が集う食卓”にたとえておられます。確かに私たちの経験を振り返っても、それらは“最も美しく和やかなひととき”と言えるでしょう。しかし、天国に入る人、神の国で「宴会の席」につくことのできる人は、どれだけいるでしょうか。

ある日、ある人が主よ、掬われる者は少ないのでしょうか」（＊１）とイエスに尋ねました。他の時と同様、イエスはこれについて議論はせず、むしろ各々が救われるための決心をするよう促され、神の家に入るよう招かれます。

ただし、それは易しいことではありません。入るための戸口は狭く、わずかの時間しか開いていないからです。実際、イエスに従うには、少なくとも精神的な意味で、自分自身や物、人に対する執着を断つことが必要になりますし、イエスがされたように、十字架を担うことさえ求められます。確かに困難な道ですが、イエスの恵みによって、私たち皆が歩むことのできる道でもあります。

狭い戸口から入るよう努めなさい。
言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。

イエスは、他の箇所で「広い門、広々とした道」（＊２）について語っておられます。そこから入る方が、もっと易しいかもしれませんが、それは「滅び」に通じるものです。世俗化の進むこの世界は、物質主義や消費主義、快楽や虚栄、暴力であふれ、何をやってもよいという風潮が見られます。人は幸せになりたい一心で、あらゆる欲望を満たそうとし、何にでも妥協する傾向があります。

しかし私たちは、真の幸福とは愛することにより得られ、愛するための必要条件は執着を断つことだと知っています。良い実をつけるには、刈り込みを受ける必要があります。生きるためには、自分自身に死ぬ必要があるのです。これはイエスの掟であり、彼のもたらす逆説です。世の中の考えは方は、あふれる川の流れのように私たちを巻き込もうとしますので、私たちは流れに逆らって歩まねばなりません。

所有欲や敵対心、反対者への中傷などを断ちきる必要があるでしょうし、仕事でも、相手に損害を与えぬよう、誠実、寛大に働くこと、またテレビや雑誌なども、見ていいものとそうでないものを区別することが求められるでしょう。

フォコラーレ
連絡先:03-3332-8460/03-3399-5508
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
いのちの言葉のホームページ
http://www.geocities.jp/focolarejapan

狭い戸口から入るように努めなさい。
言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。

安易な生活に流れ、イエスが示される生き方を選ぶ勇気のない人には、悲しい将来が待っています。福音はこれについても記しており、イエスは、“戸口の外に残される人”の味わう苦しみについて語られます。私たちがキリスト者であると自負し、定められた義務だけを果たすキリスト教で満足しているとすれば天の国に入るのに十分ではありません。「ご一緒に食べたり、飲んだりしました・・・」（＊３）と訴えても、無駄でしょう。救いはだれにとっても、無条件で与えられるものではないからです。「お前たちがどこの者か知らない」（＊４）と神から言われるとしたら、つらいことでしょう。孤独と絶望を味わい、自分は神と何のかかわりもないことを知らされるのです。人はその時、“人生の中で自分は愛することができたはずなのに、そうしなかった。そして、今はもう愛することができない”という激しい後悔の念にさいなまれるでしょう。「泣きわめいて、歯ぎしりする」（＊５）この苦悩は永遠に続くもので決して終わることがないでしょう。

そこでイエスは、私たちのためを思って、どう生きるべきかを前もって教えてくださいました。イエスが私たちに扉を閉ざされるのではなく、わたしたちの方がイエスの愛に対して、自らを閉ざしてしまうのです。イエスは私たちの自由を尊重されます。

狭い戸口から入るよう努めなさい。
言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。

広い戸口が人を滅びへと導くならば、狭い戸口は、真の幸福を私たちにもたらしてくれます。冬の後には、いつも春が訪れます。福音が求めるように、私たちは自ら進んで執着を断ち、日々自分の十字架を担うことが必要でしょう。私たちのあらゆる苦しみをご自分のものとされたイエスと一つになって、私たちが愛のうちに苦しむことができるなら、今から“天国”を味わうことでしょう。

ロベルト場合もそうでした。４年前父親を事故で亡くした彼が、事故を起こした相手の裁判の最終公判に行った時のことです。妻や父親に伴われた相手は、有罪の判決に、がっくり落ち込んでいるのがわかりました。後でロベルトはこう語っています。「その時、私は、自分の傲慢な思いが『やめろ』と言うのに打ち勝ち、あの男性のもとに行こうと思いました。私が彼のそばにいることを感じてもらいたかったのです」しかしロベルトの姉は「あの人たちの方が、私たちに謝罪すべきじゃないの」と言いました。彼は姉を説得し、二人で“敵”の家族のところへ行ってこう言いました。皆さんの心の重荷を少しでも軽くできるならと思って、申し上げたいのですが、私たちは皆さんに対して一切恨みの思いは持っていないのですよ」彼らは力強く手を取り合いました。ロベルトは言っています。「その時、私の心は喜びであふれていました。自分の苦しみを後にして、相手の苦しみに目を向けることができたからです。」

キアラ・ルービック

＊１　カ１３・２３　＊２　マタイ７・１３　＊３　ルカ１３・２６
＊４　ルカ１３・２５　＊５　ルカ１３・２８

“LA BELLEZZA” (Aforismi)

Il bianco immacolato del tuo cuore è la sintesi dei colori della Bellezza.

La bellezza non la capisci se prima non l'accarezzi con l'anima.

君の汚れのない真っ白な心は美の様々な色の結晶体である。

先ず魂で触れない限り、美を理解できないであろう。

(“美に関するアフォリズモ”から)

Marco Maffezzoli (マルコ・マッフェッツォーリ；浅野菜生子訳)

◇作者プロフィール (当誌四月号に詳細)

< **Marco Maffezzoli** (1971-1998) >

マルコ・マッフェッツォーリ、1971年6月8日イタリアのマントヴァに生まれる。 1998年10月8日、自動車事故に遭い、脳死と判定され、「息子がここで口を利けたなら、きっとイエスと言うだろう」と、ご家族は臓器提供を決断。２日後の10月10日、心臓・肝臓・腎臓・角膜が６人の人に無事移植された。

◇出典

『 Lungomare di comete 』出版社 Edizioni il Dialogo 、１９９９ Mantova

◇翻訳と紹介

< 浅野　菜生子 >

東京生まれ。ピアニスト。オペラ・声楽・オーケストラの仕事を中心として、日本及びイタリアで活動している。２００３年の復活祭に受洗。
洗礼名 Viviana (ヴィヴィアーナ)。

お米

お米を洗っていました。
水に、手を入れて、さらさらと洗っていました。

ふっと、手の中一杯に、お米をぎゅっと握りしめてみて、お米って砂利のように硬く、そして冷たいなあと、改めて思いました。

こんなに硬く冷たいものが、熱と水とによって、白くふっくらした温かいご飯になるとは、思えば、なんと不思議なことでしょう！

お米の硬い冷たい粒が、ご飯として食べられることを発見した時、人間は踊りあがって喜んだかもしれませんね。さあ、どうでしょう？

硬く冷たい自我を着ているわたしも、神さまの愛のかまどで、神さまのいのちの水によって、ふっくらとした温かいご飯になって、誰かに、美味しく召し上がって頂けたらいいなあ、などと、ふと思ってしまいました。

硬く冷たいお米が、炊かれて、ふっくらしたご飯になるという不思議を、美しいと思ったひとときでした。

丸山知佳子

天国の通路

「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである」（マタイ 7:1、ルカ 6:37－38、ルカ 6:41－42）と主は言われる。裁かなくていい。妬まなくていい。憎んだり、悪口言わなくていい、第一他人と比べなくていい。教えようとしたり、非難しなくていい。天国に通じる入口、通路を見つけたら、生活の苦労、悩み、病気の苦しみなどがどんなに軽く、凌ぎ易くなるに違いない。そこに手を取って導いてくださるのが主イエス・キリスト様です。御自ら案内してくださる。聖霊は囁いて教えて下さる。

どんな暗闇の細い通路に居る時も安心出来るよう恵みで満たして下さる。ほんのひととき聖言葉に心を向けるならばーー。ほんのひととき祈りの時間を持つならばーー。十字架のイエス・キリスト様を仰ぎ見て、心を捧げるならばーー。私のことも周りの方たちのことも全てご存知で、愛の中に全てを行われる父なる神様の慈しみに信頼して願うならばーー。諦めずに祈り、願い、信じて待っていよう。奪われない喜びを持って来て下さるまで。

アグネス酒井利栄子

存在の告知

蛭田　幼一

鶏頭の茎が一本、丈高く伸びていた。大きな紅の冠をかむっていた。その道は駅までの一本道、右手のなだらかな丘陵の向こうに、浅い谷間が見渡せた。九月の太陽は白熱し、相模の海は燃えていた。風が茎を揺り動かす。冠も一緒に揺れる。僕はそこに朽ちないものの先触れを見る。存在の告知を聞く。おお九月の相模灘は神秘の海！　谷間は乳色に眠っている。

いちじく

聖書に記されている「いちじくの木」の意味するものは何だろうか。
ヨハネ福音 1—43は、フィリポ、ナタナエルの召命の箇所である。フィリポは、ナタナエルに会って告げる。
「我々は、モーセが律法の書に記し、預言者たちも書き記した人に出会った。それは、ナザレ人で、ヨセフの子、イエスだ。」
すると、ナタナエルは言い返す。
「ナザレから、何かいいものが出るだろうか」
ナザレなんて、歴史的にゆかりの場所ではないし、僻地の一寒村じゃないか、エルサレムやベツレヘムじゃあるまいし。そんな所から、大人物が出るものか！

仕事や子育てなど、毎日の生活に追われているさなかに、突如、深遠な次元が開かれた。しかし、そのメッセージは無名の人物によるものだった。「素晴らしいことを教えてくれるって？でも、一体その人は何者なの？え、名だたる大学で神学、哲学を修めた人ではない？アメリカで、長年心理学を研究していたとか、その筋の権威者でもないの？え、日本の片田舎出身？うさんくさそう…」
私たちは、素晴らしい教えに出会ったとしても、裏付けを欲しがる。権威筋からのお墨付きを見て、やっと安心して、これは本物らしいぞ、となる。

フィリポはナタナエルの疑いを払拭するには、本人に会わせるのが一番と考えた。
イエスは、ナタナエルが自分の方に来るのを見て、言われた。
「この人はうそは言わない。真のイスラエル人だ」
ナタナエルは尋ねる。
「どうしてわたしをご存知なのですか」
イエスは、ナタナエルという人間の本質を見抜いておられる。そして、更に言われる。
「あなたがフィリポから呼ばれる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」

一体この木の意味するものは何だろうか。アブラハムはマムレの「樫の木」のそばで主に遭い、エリアは「えにしだの木」の下で寝、ヨナは主が生やしてくださった「唐胡麻」の下で涼んだのである。アブラハムの樫の木は、どんな試練にも、誘惑にも耐えしのび、主の救いのみに心を寄せる力強い信仰を象徴してはいないだろうか。では、いちじくの木とは？

つづく

新刊紹介

藤原　直達著『内観の霊性を求めて（2）　心の深海の景色』カトリック内観研究会発行、2004年、会員頒布1500円。

本書は、仏教の「大乗起信論」の枠組みで、キリスト教神秘思想家・アヴィラの聖テレサの『霊魂の城』を読み解くというきわめて大胆な試みである。これは、8年余、「キリスト者のための内観瞑想」という内観面接同行を行って来た著者が、自分の中にあたためてきたものである。キリスト教と仏教のはざまで、諸宗教対話、文化内受肉といった事柄に関心を持っている多くのキリスト者向けて書かれている。

カルメル会の企画案内

東　京

カルメル修道会　と　聖テレジア修道院（黙想）

2004年4月～2005年3月までの黙想会予定表

1.　聖　書　深　読　（毎回土曜日　夕食～日曜日　１６時）

4月　3日～　4日・・・九里彰師
5月　8日～　9日・・・奥村一郎師　了
6月２６日～２７日・・・九里彰師

9月４日～　5日・・・奥村一郎師
11月２７日～２８日・・九里彰師
'05/３月１９日～２０日・・奥村一郎師

2.　奉献生活者のための黙想会

・　7月２７日（火）１６時　～8月　5日（木）朝・・・渡辺幹夫師　了
・　8月１１日（水）１６時　～8月２０日（金）朝・・・チプリアノ師　了
・　１２月２７日（月）１６時　～1月5日（水）朝・・・九里彰師

3.　カルメルの聖人を見つめ霊性を深める

（毎回水曜日　１０時～１６時）・・・九里彰師

A・・・大聖テレジア
（1）４月２１日　了
（2）6月　2日　了
（3）9月２９日
（4）１２月1日
（5）2月１６日

B・・・十字架の聖ヨハネ
（1）　5月２６日　了
（2）　7月　7日　了
（3）１１月２４日
（4）　1月１９日
（5）　3月　2日

4.　青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

（1）５月２２日（土）１６時～２３日（日）１６時　了
（2）１１月6日（土）１６時～7日（日）１６時

5.　召　命　黙　想　会（男女）・・・九里彰師・原修士

１０月２９日（金）１６時～３１日（日）１６時

6.　大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後３時から。（講話なし）　チェックアウト午前１０時まで
（1）復　活　祭　　４月１０日（土）夕食なし～１１日（日）朝食あり　了
（2）クリスマス　　１２月２４日（金）夕食なし～２５日（土）朝食あり
（3）復　活　祭　'05/　３月２６日（土）夕食～２７日（日）朝食
（4）聖週間を黙想する　'05/　３月２４日（木）夕食～２７日（日）朝食

東　京

7.　ユース　リトリート《カルメルの泉》　青年男女　大瀬高司師

（1）5月1日（土）16時～2日（日）14時　了

＊　年間に何回か企画する予定ですので、その都度お知らせします。

8. 特　別　黙　想　会

最初の日の夕食をすませてからお越しください。どなたでも参加できます。

①　6月　7日（月）20時～　9日（水）15時　新井延和師　了

②　10月25日（月）20時～27日（水）15時　新井延和師

③　5月28日（金）20時～30日（日）15時　了

“わたしは神をみたい。”カルメルの霊性　Sr. 伊従信子

④　11月19日（金）20時～21日（日）15時

“テレーズと共に祈る”　Sr. 伊従信子

9. 待　降　節　黙　想　会　　チプリアノ師

12月3日（金）夕食　～　5日（日）15時

＊　電話でのお問い合わせは　午前9時～午後4時45分までにお願いします。
また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくＦＡＸ・はがき・Ｅメールでお願いします。（お返事は致します）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）担当　br 原
TEL　03-5706-7355
FAX　03-3704-1764
Eメール　mokusou@carmel-monastery. jp

召命黙想会

「恐れるな！

今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」

日時：　１０月２９日（金）１７時受付開始１８時夕食～３１日（日）16時
場所：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
　　東急大井町線　「上野毛」下車徒歩７分
対象：　召命を考えている独身青年男女
定員：　20名
スタッフ：九里（くのり）　彰神父、原　造修道士
申し込み連絡先：　〒158-0093　東京都世田谷区上野毛２－14－25
TEL　（03）5706－7355
FAX　（03）3704－1764
E-mail　mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル会聖テレジア修道院企画

特別黙想会

《 希　　望 》

☆　10月25日（月）20時　～　27日（水）15時まで

指導司祭：新井延和師（カルメル会）

《 テレーズとともに祈る 》

☆　11月19日（金）20時　～　21日（日）15時まで

指導：Sr 伊従信子（ノートルダム　ド　ヴィ）

当日は20時から始まりますので夕食を済ませてお越しください。
持参するもの・筆記用具、パジャマ
参加費：￥12,000（当日持参）

お申し込み　お問い合わせ
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
Tel　03-5706-7355　Fax　03-3704-1764
E-メール　mokusou@carmel-monastery.jp

カルメルの霊性研究クラス

＊十字架の聖ヨハネ：「カルメル山登攀」
　９月はなし。１０月６日、１０月２７日。１１月１７日。
（１０月６日は、第３部第３６章～第４２章を読みます。）
＊　アヴィラの聖テレジア：「自叙伝」
　９月はなし。１０月１３日、１１月４日(木)、１２月２日（木)。
（１０月１３日は、第３２章を読みます。）
どちらも水曜日、夜７：００より、上野毛教会信徒会館２階２６号室でおこなわれます。時々、都合により曜日を変えますので、ご注意ください。

祈りの集い

９月はなし。１０月２９日、１１月２６日、１２月１７日
毎月一回金曜日の夜７：００より、上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわれます。何の準備も要りません。
７：００～８：００　み言葉と念祷
８：００～８：３０　分かち合い（茶話会）

[霊性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期の参加も可能ですが、「カルメルの霊性研究クラス」の方は、なるべく継続して出席されることが望まれます。

担当：九里（くのり）　彰神父

京　都

2004年　黙　想　会　案　内　（宇治カルメル会）

【聖書深読黙想会　（土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散）

1月24日(土)～25日(日)	新井延和神父	了
2月28日(土)～29日(日)	福田正範神父	了
4月24日(土)～25日(日)	中川博道神父	了
5月29日(土)～30日(日)	福田正範神父	了
6月26日(土)～27日(日)	奥村一郎神父	了
7月24日(土)～25日(日)	福田正範神父	了
9月　4日(土)～5日(日)	新井延和神父	
10月30日(土)～31日(日)	中川博道神父	
11月20日(土)～21日(日)	九里　彰神父	
12月11日(土)～12日(日)	奥村一郎神父	

【青年のための黙想】

・男女性のため　4月18日(日)午前10時～午後5時　カルメル会士. カルメル宣教会
10月17日(日)午前10時～午後5時　カルメル会士. カルメル宣教会

【一般のための黙想】

・水曜の黙想　（午前10時から午後4時まで）

1月 21日(水)	受肉の神秘	新井延和神父	了
2月11日(水)	イエスの祈り	アロイジオ神父	了
3月17日(水)	聖ヨセフ	福田正範神父	了
4月14日(水)	復　活	新井延和神父	了
5月19日(水)	マリア様と共に	奥村一郎神父	了
6月16日(水)	聖　霊	長岡幸一神父	了
7月21日(水)	カルメルの祈り	新井延和神父	了
9月15日(水)	十字架の神秘	福田正範神父	
10月13日(水)	アビラの聖テレジア	シスターベアトリス	
11月17日(水)	諸聖人の通功	長岡幸一神父	
12月15日(水)	十字架の聖ヨハネ	奥村一郎神父	

・四旬節の黙想　3月6日(土)午後5時～7日(日)午後4時　福田正範神父　了

・待降節の黙想　12月4日(土)午後5時～5日(日)午後4時　中川博道神父

・聖テレーズの黙想　伊従信子氏
9月30日(木)午後5時～10月1日(金)午後4時

【奉献生活者の黙想】（午後5時集合/午前9時解散）

7月11日(日)～　7月20日(火)	新井延和神父	了
8月　2日(月)～　8月11日(水)	中川博道神父	了
8月16日(月)～　8月25日(水)	福田正範神父	了
10月18日(月)～10月27日(水)	福田正範神父	

その他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします.

申し込み方法：－
電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。 なお、お電話でお申し込みの場合，受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが、後日、改めてお問い合わせくださいますよう、お願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
Tel　0774－32－7016　／　Fax　32－7457

名古屋

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（２００４）

この会は、現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ 28:20）といわれました。共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみてはいかがでしょうか。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについてイエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第１回　１月 12 日（月）「聖ルカに聞く（１）」　松田浩一　神父
第２回　２月 11 日（水）「カルメル諸聖人の道」　大瀬高司　神父
第３回　３月 23 日（火）「聖ルカに聞く（２）」　松田浩一　神父　了
第４回　４月 29 日（木）「わたしたちの召命」　中川博道　神父
第５回　５月 25 日（火）「聖ルカに聞く（３）」　松田浩一　神父
第６回　６月 29 日（火）「恵みの梅雨」　松田浩一　神父
第７回　７月 19 日（月）「神の国への道標」　松田浩一　神父
第８回　９月 28 日（火）「聖ルカに聞く（４）」　松田浩一　神父
第９回　10 月 11 日（月）「神の家族」　~~中川博道　神父~~
（真に申し訳ありませんが中川神父の都合上により松田浩一神父変更）
第１０回　11 月 23 日（火）「わたしたちの使命」　九里　彰　神父

＊時間　いずれも AM10：00～PM4：00
＊場所　カトリック日比野教会（地下鉄・名城線、日比野駅下車徒歩５分）
（駐車場は利用できません。）
＊費用　1，000 円
＊持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、昼食の弁当
＊定員　約１５名

プログラム
10:00～　祈り
10:45～　講話【1】
12:00～12:45　昼食
12:45～　ゆるしの秘跡または短い面接
13:30～　講話【2】
14:45～　ミサ
15:30～　茶話会

・また、空いている時間にゆるしの秘跡または短い面接を受けることができます。

申込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の３日前まで必着のこと。尚、日比野教会の葬式などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062　名古屋市熱田区大宝 4-5-17
カルメル会日比野修道院　　一日静修係（担当　松田浩一　神父）
FAX　052【671】1825、（お問合せ）TEL　052【671】1003

聖書深読センターのご案内

1　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。（P19.）
2　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。（P24.）

3　京　都・・・9月18日（土）　ペテロ・バーケルマン神父
　　10月　9日（土）　奥村一郎神父
　　11月13日（土）　新井延和神父
　　12月　9日（木）　奥村　豊神父
　場　所：河原町カトリック会館6階　　費　用：各回2,500円
　時　間：午前10時～午後4時　　持参品：聖書・筆記用具・ノート
　申し込み・問い合わせ
　　〒604-8006　京都市中京区河原町通三条上ル
　　河原町カトリック会館内　聖書委員会
　　TEL：075-211-3484　　FAX：075-211-3910

4　名古屋・・・10月2日（土）～3日（日）宇治カルメル黙想の家　奥村一郎神父
　　11月6日（土）　　日比野カトリック教会　中川博道神父
　毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
　原則として、定員21名とし、申し込みはファックス、葉書でお願いします。
　コースは深読法を集中的に行う1日コースと、全行程を行う1泊2日コースがあります。
　対象は信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方でしたらどなたでもご参加下さい。
　　連絡先：〒465-0058　名古屋市名東区貴船3-2115　小林 厚
　　TEL/FAX　052-701-3685

5　横　浜
　1泊2日コース

9月15日（水）～16日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	中川博道師
11月17日（水）～18日（木）	裾野修道院（裾野・桃園）	奥村一郎師

　時間　一日目　13時30分～2日目　16時まで
　なお上記のように11月のコースは日付け・場所が変わりました。

　連絡責任者　　蜜本昌俊　TEL・FAX　045-621-5838

お知らせ

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月 17,900 円（4、7、10、1 月に納入）　継続の場合は 15,950 円

講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2　有光信子

参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはいないので、コメントや解読はない。

費用：１回 300 円　　年 10 回 3,000 円

送り先：〒663-8033　西宮市高木東町 31-20-505　　有光信子

ＴＥＬ／ＦＡＸ　0798-67-8132

3　ミニ深読

グループで 2、3 時間かけて聖書深読法の一部分を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒベアトリスまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒベアトリス

ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543

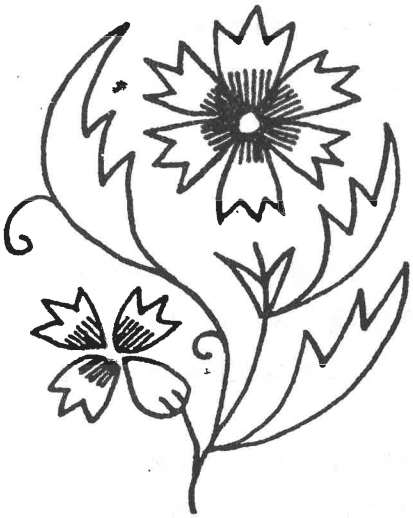
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

東京カルメル在俗者会　黙想会

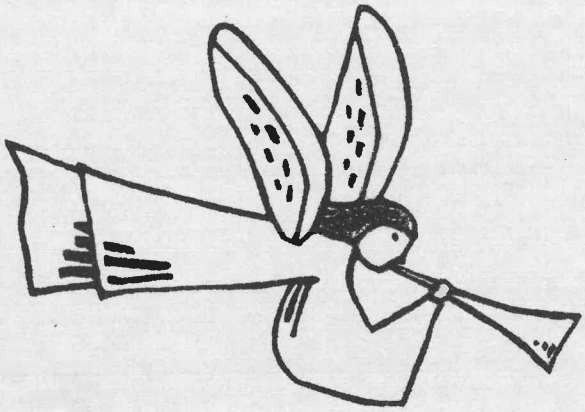
場　所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日　程　　９月　７日（火）夕食～１０日（金）　指導：アロイジオ神父
　　１０月１４日（木）夕食～１７日（日）　指導：中川博道神父
　　１１月　９日（火）夕食～１２日（金）　指導：九里　彰神父

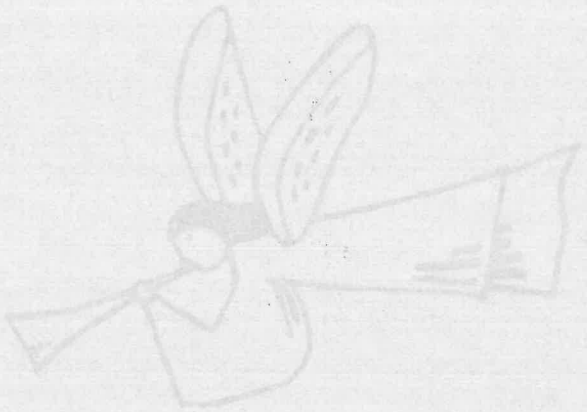
☆　空きがある場合には、一般の方でも参加可能です。
　　お申し込み・問い合わせは下記まで。
　　ＴＥＬ／ＦＡＸ　03-3892-1378　　阿部　昌子



諸所の企画案内



ノートルダム．ド．ヴィ
コングレガシオン．ド．ノートルダム修道院
三位一体の聖体宣教女会
マリアのみ心会
聖心会黙想の家
真命山霊性交流センター
心のいほり
風の家
スズランハウス



諸所の企画についての紹介

＊　ノートルダム・ド・ヴィ

場　所：〒177-0044　東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247
Fax(03)3594-2254

＊　祈りの集い・　いのちの泉へ

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

日時：１０月２３日（土）．１１月２７日（土）．１２月１８日（土）

講話：伊従信子・片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

時間：午後２時から（プログラム、修了時間は日によって違いますので事前にお問い合わせ下さい）

＊　問い合わせ・申し込み

Ｔｅｌ（０３）３５９４－２２４７（電話は午後６時～９時の間に）

Ｆａｘ（０３）３５９４－２２５４（Ｆａｘ送信は何時でも結構です）

＊　コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

場所：東京都調布市下石原３－５５－１

TEL:０４２４－８２－２０１２・　FAX:０４２４－８２－２１６３

＊　一日黙想会・テーマ「イエスのみ心を味わう」

日時：２００４年１０月１７日（日）１０：００～１６：００

場所：ノートルダム調布修道院

指導者：千原通明神父（イエズス．マリアのみ心会）

対象：２０代３０代の未婚女性　（参加費：１０００円、聖書、筆記具持参）

＊　申し込み締切り：１０月１６日（土）

担当：Ｓｒ池田洋子・Ｓｒ山本三千子

＋　当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。　南口から徒歩２０分
タクシーで５分。下石原３丁目マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。

＊　ＣＷＣ　（キリスト者婦人の集い）　講師：九里　彰　神父　（カルメル会）

＊　テーマ：聖書に登場する女性の霊性

日程　：２００４，９／２８（火）　１０／１２（火）　１２／１４（火）

時間：午前１０：３０～１２：００

会場：真生会館第一会議室

これまでのテーマは「アブラハムの２人の妻」「マルタとマリア」「ベタニアの女」「サマリアの女」「マリアの受胎告知」でした。

＊　三位一体の聖体宣教女会　東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：２００４年～２００５年

「聖書で祈る」：　指導：雨宮　慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

１１月２７日（土）５：３０～２８日（日）４：００

＊　２００５．２月２６日（土）５：３０～２７（日）４：００

祈りの集い：神が下さる私の道　指導：対象：男・女青年信徒

１１月２７日（日）１０：００～４：００

＊　２００５．２月８日（土）１０：００～４：００

黙想会：指導：　対象：一般信徒（お弁当持参）

１１月１９日（土）１０：００～４：００

＊　２００５．２月４日（金）１０：００～４：００

年の黙想会：　指導：瀬戸勝介　師　（イエズス会）　＊対象、修道女

＊＊＊＊＊＊＊

キリスト教講座　カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日　10:00am ～11:30am

十字架の使徒職の集い　　＊対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第１グループ　　毎月第２金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第２グループ　　毎月第１木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ＊司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30Pm～200Pm）

＊　マリアの御心会

場　所：〒160-0012　東京都新宿区南元町６－２

ＪＲ信濃町駅下車徒歩２分

＊問い合わせ・申し込み：TLE.03-3351-0297　：FAX.03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」　結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

２００４年度	（テーマ）	指導者
９／２６（日）	一致・交わり・共同体	松井紀直師
１０／２４（日）	マリアの７つのことば	ヌエル・エルナンデス師
１１／２８（日）	霊の識別	ティエリ・ｊ・ロボアム師
１２／１９（日）	星に導かれて	ジャン・クロード・ホレリッヒ師
２００５年度		
１／２３（日）	聖体に現存するキリスト	森　一弘司教
２／２０（日）	わたしの内に、巣くう社会の歪み	下川雅嗣師
３／２０（日）	毎日の生活の中に神を探す	加藤信也師

リーゼンフーバー講座・集い・研究会の　案内

キリスト教入門講座　金曜日１８時４５分～２０時３０分　聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本テーマを致します。

キリスト教理解講座　毎月第一・第二火曜日１８時４０分～２０時３０分
聖イグナチオ教会アルペンホール。キリスト教の基礎知識のある方。（２年間コース）信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心テーマを探求

聖書研究会　木曜日１２時４０分～１３時２５分上智大学７号館３１６号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を１章づつ読んで話し合います。

座禅会　＊月曜日　17時20分～20時10分　＊　木曜日18時20分～20時30分
どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心　2004.10/29（金)20:30～11/3日（水）14時　秋川神冥窟（一泊2400）
2005.2/26　(土)8:30　～27日（日）16時　上石神井　（5400）
5/29　(土)13:～30日（日）16時　宝塚市
7/31　(土)17:30～8/6(金）13時

黙　想：毎月第２．第４火曜日18:45 － 20:00：　イグナチオ聖マリア聖堂
水曜日 18:00～18:30 ：　上智大学内クルトゥルハイム一階右小聖堂　どなたでも

祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00　場　所：S.J.ハウス第５会議室
講話、黙想、ミサがあります。
9/11.10/16.11/13.12/11. ＊ 2005.1/8.2/19.3/19

黙想会：　9/18.（土）10:00 ～9/20日（日）15:00 （１泊4400円）
11/27.(土）10:00 ～11/28 日（日）15:00

アガペ会：　説明会と集い・下記の日　１３時３０分～　（20代～40代の信者）
10/9.(土)　2005.1/22(土）：Ｓ．Ｊ．ハウス第５会議室

クリスマス会　12/18（土）16：30～上智会館５階第６会議室　要申し込み
12/23（火）14:00 ～上智大学内クルトゥルハイム聖堂

会社帰りの黙想　毎月第２．第４火曜日　１８：４５～２０：００
聖イグナチオ教会マリア聖堂（中聖堂）

＊　以上、問い合わせ・連絡先　：クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス
直通電話 03-3238-5124 、 5111(伝言）、FAX,03-3238-5056

聖心会裾野修道院　ヴィラ・フジ（黙想の家）

〒411－1126　静岡県裾野市桃園198

TEL: 055-992-2120　FAX:055-992-2165

聖書による個人指導黙想会

2005年1月26日（水）－2月4日（金）

ヘルパー：松本秀友師（京都教区）、Srs.　吹田真佐子、長谷川和子

申込先：〒108－0072　東京都港区白金4－11－1

聖心会レターレ修道院　Sr.吹田　真佐子

Tel:03-3446-1270　Fax:03-3441-0454

〒455－0872　名古屋師港区西蟹田1833

聖心会名古屋修道院　Sr. 長谷川　和子

Tel:052-302-4385　Fax: 052-309-1670

一般黙想会

テーマ：「自分探し」（2回とも参加できる方）

講師：近藤雅広神父（心のともしび運動）

① 2004年11月1日（月）午後1時より

11月3日（水）午後2時まで

② 2005年4月14日（木）午後1時より

4月16日（土）午後2時まで

参考：「私は誰ですか」（近藤雅広著　天使院刊）にもとづく講話形式の黙想会

申込先：Sr．長谷川　和子　（上記の連絡先）

＊　真命山　の　霊性　　〒865-0133　熊本県玉名郡菊水町蜻浦１３９１－７
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
申し込み：TEL.0968-85-3200;Fax.0968-85-3186
e-mail:shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

２００４年度
祈りの集い：テーマ・聖人の祈りに学ぶ
９／９　（木）　聖フランシスコ・サレジオ
１０／１４（木）　アビラの聖テレジア
１１／１１（木）　福者三位一体のエリザベット
１２／９　（木）　十字架の聖ヨハネ
第６回　署宗教平和の祈りの会
１０／３（日）　１４：００～１７：００
＊：尚、個人、グループで黙想会、研究会などできますので、ご相談下さい。宿泊は１０名ぐらい迄可能です。

＊　『心のいほり』
内観瞑想センター』代表　藤原直達神父　（大阪教区司祭）
〒５７２－０００１　大阪府寝屋川成田東町３－２７
TEL/FAX ０７２－８０２－５０２６　携帯　０９０－２４０１－９３７４
活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。
希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。
電話では取り次いでおりません。
２００４年度
９／２　（木）２時～９／８　（水）２時まで　６泊７日　横浜・戸塚
９／１９（日）２時～９／２５（土）２時まで　６泊７日　京都・竜安寺
１０／７（木）２時～１０／１３（水）２時まで　６泊７日　横浜・戸塚
１０／１７（日）２時～１０／２３（土）２時まで６泊７日　兵庫・宝塚売布
１１／７（日）２時～１１／１３（土）２時まで　６泊７日　京都・竜安寺
１１／２４（水）２時～１１／３０（火）２時まで６泊７日　横浜・戸塚
１２／１２（日）２時～１２／１８（土）２時まで６泊７日　兵庫・宝塚売布

＊　風　の　家　　井上洋治神父　　（東京教区司祭）
〒１６９－００４２　新宿区西早稲田３－１７－２３－９０３
TEL:０３－３２０４－４４５３
山根道公　　機関誌　　『風』　編集者
〒７００－０８０８　岡山市大和町１－１１－１７
TEL:FAX ０８６－２２７－５６６５

＊　スズランハウス　　責任者・井口貴志
〒192-0041八王子市中野上町4-27-4・TEL.0426-28-3222
アルコール依存症、やせ症、摂食障害者とその家族のための施設。

カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.313（2004年夏号）

「今日の霊性」

聖体＝キリストの過越の神秘(60)　…高橋重幸
「友」なる神との語らい　ーイエスの聖テレジアの祈りの定義　…九里　彰
イエズス　私の最愛のお方　思い出してください(11)　…P.・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(5)…伊従信子
エディット・シュタインの生涯ー　…十字架のヨハンナ
三位一体のエリザベット(6)…伊従信子
仏教者の作品の中に見られるキリスト教(1)　…谷口正子
出会いー修道生活きのうきょうー（7）…奥村一郎

雑誌「カルメル」2004年特集号

「本質的なことからの再出発」

福音の本質的なこと　ー現代日本の文脈の中で　…中川博通
現代日本におけるキリスト者の本質とは何か
ーキリストの弟子として生きる　…松田浩一
共同体の本質　ー過ぎ行く時の試練の中で残ってゆくもの　…大瀬高司
奉献生活の本質　ー愛の証しとしての奉献生活　…九里　彰
カルメルの本質　ー観想と神　…新井延和

＊年５冊(春夏秋冬号＋特集号)頒布価格：3000円(送料込み)
郵便振替：００１９０－４－１９５４５７
跣足カルメル修道会
（どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：℡03(5706)8356迄。）

「カリットへの旅　ーカルメル会の歴史」
P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、2003年、サンパウロ、定価(本体2500円＋税)。

「愛するための自由　ー十字架の聖ヨハネ入門ー」
N・カミン著。山口女子カルメル会訳、2000年、ドン・ボスコ社、定価(本体1500円＋税)。

お　願　い

投稿くださるときには、次のようにしていただけると幸いです。

1．締め切り　毎月１０日
2．原稿サイズ：B5　左右の余白：最低１５mm
3．「心の泉」のコーナーについては、
　随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
4．「諸所の企画」のコーナーについては、
　①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
　②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
　③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
5．原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
6．寄稿連絡は、九里（くのり）　彰神父宛にお願いいたします。
　〒158-0093　世田谷区上野毛 2-14-25　カルメル会修道院
　Tel (03) 3704-2171　Fax (03) 3704-1764
7．「霊性センター・ニュース」をより内容豊かなものとしてゆくために、これからも献金へのご協力をお願いいたします。
　郵便口座番号：00190-2-95003　加入者名：　カルメル会聖テレジア修道院
　通信欄に、「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、下記まで郵送ご希望の月数分×220 円切手または現金を送ってください。これには、封筒代が含まれています。
佐々木茂子　〒230-0074　横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11
Tel（045）575-5722

編集後記

7 月下旬、東アジア・オセアニアにあるカルメル会６管区の神学生の交流会が、一週間シンガポールでありました。神学生の国籍は 9 カ国に及び、まさに international でした。これからは、さまざまなレヴェルでの国際交流がますます盛んになって行くことと思われますが、言葉や民族、風俗や習慣、歴史や気質等の相違を越えた一致と平和が、共にささげたごミサの中で実現していることに気づかされました。

キリストこそ、私たちが過去の悲しい現実を乗り越え、互いに赦し合い、受け入れ合うことを可能にし、一つの兄弟家族としてくださっている方であることをあらためて痛感しました。それは感動的な光景であり、血で血を洗う争いの絶えることのないこの世においては、一つの奇跡のようにも思われました。

さまざまな相違、宗教の相違をも尊敬の内に受け入れ合う、「多様性の中の一致」が、この世界にさらに実現してゆきますように。

（P.九里）

REGINA
DECOR
CARMELI